

①停電信号を受け、シャットダウンスクリプトを実行 (WATCHBOOT mini及びTIMEBOOTシリーズのUPS連携機能)

任意の間隔(デフォルト10秒)でUPSの状態をモニタリングします。

指定時間以上停電信号(CS信号)を検知した場合にTELNET or SSHによるシャットダウンスクリプトを送出します。(送出先やスクリプトも任意設定出来ます)

※1、CD信号を受けて、ローバッテリー状態も検出します。

※2、シャットダウン終了後、ER信号を送り、UPSシャットダウンを行う事も可能です。

UPS連動設定
更新

基本設定
詳細設定
接点設定
セキュリティ設定

※特殊記号は利用できません。

UPS連動設定

UPS名称	UPS510SS
UPSモニタ時間間隔	10 秒
UPSシャットダウン開始時間	120 秒
停電検知レベル	<input type="radio"/> 負 <input checked="" type="radio"/> 正
ローバッテリー検出レベル	<input type="radio"/> 負 <input checked="" type="radio"/> 正
UPSシャットダウン信号レベル	<input type="radio"/> 負 <input checked="" type="radio"/> 正
UPSシャットダウン有効化	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効

適用
リセット

UPS情報	
UPS名称	UPS510SS
給電状態	正常
バッテリー状態	正常
商用入力異常回数	0

REMOTE SCHEDULE CONTROLLER

②一斉起動順番の指定

アウトレット毎に、0秒～3600秒のON遅延時間が設定出来ます。
(新F/Wであれば、変数 debOIPowerOnSTime にて設定)

③アウトレット個別制御、スケジュール制御

ネットワーク対応型ですので、PC或いはスマートフォン・タブレットといったモバイル端末等からも電源制御が可能です。

また、WATCHBOOTシリーズであれば週間スケジュール機能を、
TIMEBOOTシリーズであれば、年間スケジュール機能を有しています。

④ネットワーク機器の死活監視

アウトレット毎に、最大4箇所のPING実行先を設定出来ます。
設定した回数以上、PINGの応答が得られない場合には、
通信異常と判断し自動電源リブートを行う事で、
自動復旧を試みる事が出来ます。



「世界最小」クラス
常時インバータUPS
Super Smart シリーズ



期待寿命 **7年**
バッテリー搭載



⑤温度監視 / コントロール

OPTIONの温度センサ(RP-TS003)を利用する事で、温度監視が行えます。
警報温度・注意温度の閾値を任意で設定出来ます(上限/下限別)

また、閾値近辺での温度変化による、
頻繁な状態変化が起こらない様、
ヒステリシス温度も任意で
設定する事が可能です。

状態が【警報⇔注意⇔正常】内で
変化した際に、E-Mail、SNMPの
TRAP等でアラートを発報する事が
出来る他、警報状態に連動させて
電源を自動制御し、冷却ファン等を
稼働させる事で、
高度な温度コントロールシステムを
簡単に構築出来ます。

PING監視		POPサーバー監視		温度監視	
<input checked="" type="checkbox"/> 温度センサーを利用する		<input type="checkbox"/> メンテナンスモード			
1	温度が 45°C以上になった場合 アウトレット1をONします	動作	2	温度が 45°C以上になった場合 アウトレット2をOFFします	動作
▲ アウトレット番号		上限警報ON	▲ アウトレット番号		上限警報OFF
2	温度が 45°C以上になった場合 アウトレット2をOFFします	動作	3	温度が 45°C以上になった場合 アウトレット3をOFFします	動作
▲ アウトレット番号		上限警報OFF	▲ アウトレット番号		上限警報OFF
3	温度が 45°C以上になった場合 アウトレット3をOFFします	動作	4	温度が -5°C以下になった場合 アウトレット4をOFFします	動作
▲ アウトレット番号		上限警報OFF	▲ アウトレット番号		下限警報OFF

上限警報	45	下限警報	-5
上限注意	35	下限注意	0
上限Hys	2	下限Hys	2

正常
27.5 °C